

神崎市・ポークール市 友好姉妹都市提携20周年 アンドレ・ジャビー氏救出80周年

記念特集

◎問い合わせ 企画課 企画係 ☎37-0102

今から80年前の昭和11年11月19日、脊振山に墜落遭難した冒険飛行家アンドレ・ジャビー氏を脊振の住民が救出しました。この出来事をきっかけに、平成8年、神崎市（当時脊振村）とフランス共和国・ポークール市は、友好姉妹都市提携を締結しました。

今年は友好姉妹都市提携から20周年、ジャビー氏救出から80周年という節目の年にあたり、これを記念してポークール市代表団を招き、10月に神崎市で記念式典を開催します。



▲愛機コードロン・シムーン機に乗り込むアンドレ・ジャビー氏



André Japy / アンドレ・ジャビー
[1904-1974]

1904年フランス ポークール生まれ。ポークール繁栄の礎を築いた名家ジャビー一族出身。28歳でパイロット免許取得後は、自作の飛行機で世界各地への飛行に挑戦し、「空の英雄」と呼ばれていた。32歳の時、パリー東京間の懸賞飛行に挑んだ。



▲当時の新聞記事（九州日報）
▲掲載写真（福岡日日新聞）

1936

アンドレ・ジャビー氏
フランスから日本へ

今から80年前の昭和11年11月15日、フランス人冒険飛行家アンドレ・ジャビー氏がパリー東京間1000時間間の懸賞飛行に挑戦するため、フランス、パリ、ブルジェ空港を出発しました。燃料補給のため、ダマスカス・カラチ・アラハバッド・ハノイ・香港に立ち寄り、東京を目指しましたが、ゴールまであと900kmというところで、脊振山上空の悪天候にみまわれ、墜落・遭難してしまいました。

脊振住民による ジャビー氏救出

異変に気付いた脊振村の



▲雑木とパラシュートで作った担架でジャビー氏を運ぶ地元消防団

2016

平成28年10月
ポークール市代表団
神崎市訪問

友好姉妹都市提携を結んだ脊振村の市町村合併やアメリカ同時多発テロ等により交流が途絶えていましたが、平成24年に、ポークール市セトリック・ペラン市長から交流再開を望む親書が届いたことから、再び日仏両国間で交流が活発になりました。平成26年には、民間団体によるジャビー氏を題材にした朗読劇が開催されたのを機にポークール市代表団が神崎市を来訪され、翌27年には、松本市長をはじめとする神崎市代表団が、神崎市となつて初めてポークール市を公式訪問しました。

**神崎市・ポークール市 友好姉妹都市提携20周年
アンドレ・ジャビー氏救出80周年 記念式典**

- 日時 10月22日（土）10：00～
- 場所 脊振勤労者体育館
- 入場料 無料

ポークール市代表団とジャビー一家親族などを招いて、セレモニーを行います。たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。

ン市長をはじめとするポークール市代表団が、記念式典出席のため、神崎市を訪問されます。

1996

友好姉妹都市提携締結と
救出60周年式典

今から20年前、ジャビー氏の救出から60年後の平成8年、住民気運の高まりやジャビー氏を題材とした本の出版（「飛べ！赤い翼」平成3年権藤千秋著）などを契機に、旧脊振村とポークール市との友好関係のきっかけとなった80年前の出来事です。



▲盟約書に署名するマイヤール町長



▲式典を記念して作成されたテレフォンカード



▲記念品の交換をする当時のマイヤール町長と山口村長。ポークール町からは置き時計・プランター・切手等、脊振村からは特産の花瓶が贈呈された。



▲フランス東部・スイスの国境近くに位置する山間の都市ポークール



▲ポークール市の姉妹都市委員会「Les ailes de l'amitié (友好の翼)」のメンバー

救出当時ジャビー氏は「相当怪我をしたのでそのまま座席に座っていると、村の人たちが多勢やって来てくれた時には全く有り難かった。言葉は通じないが約30分後、機体からようやくだして貰ったときは思わず村人の手にすがりついて「有り難う」有り難うと涙が出ました。村の人達、博士達の真心こめた手厚い看護は何とお礼の言いようもありません。日本人の温かい気持ちが本当に身に染みて



▲九州大学附属病院に入院中のジャビー氏（写真提供 日本航空協会 複製禁止）